

# すくすく たけのこ



## 子どもは“笑顔の宝箱”

いち早く春を告げた梅の花も、暖かな風に舞い、春の主役のバトンは桜に渡されました。桜花爛漫の季節の中で、“希望の城(関西創価小)”は、喜びに胸を膨らませる新入生を迎える日を心待ちにしています。初回の教育コラムは、「**“素直な気持ち”を伝えられる子に!**」をテーマに「泣く」ことについて書かせていただきました。2回目の今回は、「子どもは“笑顔の宝箱”」と題して、「笑顔」について筆を進めたいと思います。



本校を訪れた多くのお客様は、「**笑顔いっぱい**の学校ですね」と、訪問の感想を述べられています。関西創価小学校のスクールポリシーは、「**明日も行きたくなる学校 未来につながる学校**」ですが、「明日も行きたくなる学校」とは、「**笑顔いっぱい**の学校」とも言えます。



「**笑顔**」が身体に与える働きは、さまざまあります。①**免疫力をアップする** ②**脳の働きを活発にする** ③**幸せな気持ちにさせる**など、その効果は絶大です。

よいことばかりが挙げられる「笑顔」ですが、「**子どもを叱るために、つい大声を出してしまおう!**」、「**毎日の子育ては修羅場です!**」など、疲れて“**笑顔でいられない**”という声も聞こえてきます。子育ては想像以上に大変だと思いますが、その中で**楽しさを実感**し、いつも**笑顔でいられたら**幸せですよね。そんな子育てができる**秘訣**を綴ってみたいと思います。

### 1. “楽しむ”ために「笑顔」をつくる

人は感情を持っており、その感情に応じて表情が作られます。したがって、笑顔も“嬉しい”や“楽しい”といった感情から自然に湧き上がってくるものです。笑顔はそうしたポジティブな感情の産物ですが、「失笑」「苦笑」「冷笑」「嘲笑」といった「ネガティブなもの」や「作り笑い」と呼ばれるものもあります。

でも笑顔には、“**特別な力**”があります。「**作り笑顔**」と「**感情**」の関係には、**面白い事実が隠されている**といえます。脳科学の研究によると、「**楽しいから笑う**」ということの他に「**笑うから楽しい**」という感情が生まれることも分かってきました。つまり、「**楽しい**」⇨**だから**⇨**笑う**”ということもあれば、「**笑う**⇨**だから**⇨**楽しい**”という、両方のベクトルがあり、不思議なことに**その効果は、“どちらも同じ”**だと言うのです。不思議ですよ。笑顔の力ってすごい!

私が強く心に残っている**創業者・池田先生の言葉**があります。それは、「**幸せだから微笑むのではない。微笑んでいくことが幸せの因になっていく。幸せだから微笑む、幸せの結果として微笑むんじゃないんだ。どんな大変なときも、そこでにっこり笑っていき、その命に福運が増していく**」というものです。

毎日の生活には、いろいろな出来事が起こり、様々な感情が入り混じります。そうした中で、子育てをしているのが、現実の姿です。しかし、漣(さざなみ)のように起こるそうした感情に左右されるのではなく、いつも自分の気持ちを“**前へ 前へ**”、“**上へ 上へ**”と向けていくことが大事なのです。



## 2. 「子どもは“笑顔の宝箱”」子どもをよく見よう

子どもは**“笑顔の宝箱”**です。意識して子どもをよく見ると、こちらが笑顔になることがあります。いろんなことが起こっても**“微笑みを忘れないでいこう”**と決めて生活していくと、**様々な発見があり、楽しくなってきます**。ここからは、私の体験です。



私には2人の男の子がいますが、特に下の子の言動には、よく笑わされました。小さいころから息子は**人が集まる雰囲気が好き**で、いつも母親に連れられて活動に行っていました。そこに集っていた**“大阪のおばちゃんたち”**は「よく来たね」と言って、とてもかわいがってくれました。そして、**“ごほうび!”**と言って、飴をくれました。息子は、その頂いた飴を毎回、**舐めないで、ガリガリと音を立てて食べていたのです**。そんな奇妙な行動が何日か続いたある日、突然**“おばちゃんたちに飴をもらうのが、”****“こわい”**と言い出したのです。不思議に思って尋ねると**“だって、テレビで『舐めたらあかん!』、『舐めたらあかん!』って言っているでしょ。だからボク、噛んで食べてるの……。でも歯が痛くなってきちゃって……”**と真顔で言うのです。天童よしみさんの「のど飴のコマーシャル」のことですね。思わず笑みがこぼれてしまいました。

また、こんな出来事もありました。**“今日は信号、全部に引っかかって、時間に遅れちゃった。ゴミンね”**と頭をかきながら謝るおばちゃんを見て、**“どうやって、あんな高いところにある信号機に、ひっかかっていたのだろう?”**と思っていたそうです。なんとまあ、「そうとるか」という感じですよ。



さらに、うちの近くには、明治時代の初期に建てられた公立小学校があり、その庭に**“二宮金次郎”**の銅像がありました。薪を背負って本を読んでいるあの銅像です。それを見た息子は、**“あの子、いつも本を片手に、お机を背負って大変だな”**と**思っていた**と言うのです。金次郎さんが、薪を背負っているのではなく、**机を背負っているように**

見えたんですね。薪を使うことがほとんどない現代では、薪より机の方がストーリーとしては、つながりますよね。



このように、子どもの生活を注意深く見ていると、いろんな発見があり、親であるこちらが思わず笑顔になってしまいます。子どもは、大人は気付けない**“子どもならではの視点”**があって、親を楽しませてくれます。おもちゃを自分なりに工夫して遊んだり、森の虫や花、飛んでいる飛行機やヘリコプターを見て大喜びをしたりするなど、**子どもの周りには、不思議な出来事がいっぱい**です。だから、子どもは**“笑顔を与えてくれる宝箱”**なのです。

でも、そんな素晴らしい“宝箱”も、その**中身を見ることができない時**があります。それは、私たちの**⑦子どもに対する要求が高かったり、⑧完璧すぎたりするとき**、また、親である私たち大人に**⑨時間に余裕がなかったりすると**、その宝箱の中身を見ることはできません。私たちが、いつも微笑みを絶やさず進んで行こうと決めて、子どもたちを見つめていけば、子育てが楽しいと感じられるのです。

人の脳は、ミラーニューロンという神経細胞があり、自分がみている人の感情を再現するといえます。つまり、私たち親が笑顔なら子どもも笑顔になります。そうして笑顔が広がっていきます。**“笑顔にあふれた家庭ほど、幸福なものはない”**との創立者のお言葉が思い起こされます。

**“笑”と“咲”は同じルーツの字だ**と言われていきます。微笑みのある「成長家族」の中で、子どもはすくすくと育ち、可能性という大輪の花を咲かせていくと思うのです。(晃)

